

成長のきっかけ



小学校や中学校で、子ども達と関わっていると、「あれ？急にこんなことができるようになっていく」と驚くようなことがあります。例えば、K-popアイドル（韓国のアイドル）にはまったことをきっかけに韓国語を習得したり、一人で公共交通機関で移動することに抵抗のあった子どもが、「バス通学にすれば親に送迎の手間を省けていいかも」と思い立ち、一人でバスで往復できるようになるなどです。他にも例を挙げればきりがありませんが、結果としてできるようになる背景には、思いつきやきっかけと、「できるようにしたい」と意識したり、目的の本質を理解して行動する努力のプロセスがあります。趣味・スポーツ・学業・仕事・生活のことなど、様々なことにおいて、このことは言えることです。数年前に軽井沢に勤めてい

た先生（今回はS先生とします）のエピソードについて触れていきます（内容については、多少のフィクションを加えていますが、ご本人の了承を得ています）。

S先生は30代前半の熱意溢れる先生でしたが、一度「こう！」と思い込むと、なかなか周囲や先輩の先生方の声が入りにくいタイプの方でした。「子どもにも保護者にも信頼される先生になりたい」と頑張っていました。ある指導案件をきっかけに気持ち

が沈んでしまい、お休みがちになってしまいました。私はS先生が復帰する過程で関わりがあつたのですが、そこで語られたのは、ご自身の教師という専門職についての基本的知識や経験の足りなさ、周りの先生方と十分に繋がれていなかった、というものでした。こういった内容については、主観的な捉えと、客観的にみて「あく、あの先生ならわかる気がする」といった捉えと、多角的な捉えができるものです。S先生の場合は、主観的なものでした。「教師という職についてから、多くの子どもや家庭と関わり、支えてくれる職場の人もいるの

に、『孤軍奮闘』して心配はあるけどうまくいっている、と独りよがりになっていた部分がある」と振り返られていました。何が足りていなかったのか、どんなことを意識して取り組んでいけばいいのか、相談の中で様々な選択肢を一緒に考えていく中で、「専門職としての知識、コミュニケーション力、全うするための耐える力、つなげる力」を身に付けていきたい、と意識の方向性が見えてきました。そこからは、周りから見えてうまくいっているようでも、ご自身が「？」と思ったときには周りに相談し、ご自身を客観的に見ながら職務に向き合われていました。

成長のきっかけは周囲からはわかりにくいこともありましたが、結果に伴う行動は誰の目にも明らかです。何歳になっても成長のきっかけはあります。振り返りや気づいたことを糧に、よりよい自分を目指していけるといいですね。



過去の「いっくらば」は町ホームページからご覧いただけます。

ウィスラー生徒交流事業を実施しました！

ウィスラー生徒受入事業を10月23日から29日にかけて実施しました。

ウィスラー生徒10名が軽井沢町を訪れ、3月にウィスラーへ派遣した町内の中学生の家庭へホームステイしました。

茶道や箏、坐禅やカーリングといった体験や、善光寺の見学等を行い、日本の文化・芸術や歴史に触れるとともに、生徒同士の交流を深めました。



また、10月27日にはウィスラー生徒10名が町長を表敬訪問しました。

ウィスラー生徒は思い思いに町長へ質問等を行い、軽井沢町への理解を深めました。

